

フルートオーケストラ演奏会

- 2022 後期 -

2022年11月26日(土)18:30開演 (18:00開場)

洗足学園 前田ホール

△新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

洗足学園音楽大学・大学院

conductor 上野 正博 *Veno Masahiro*



神奈川県生まれ。

東京藝術大学音楽学部指揮科卒業。同大学院音楽研究科指揮専攻修了。

‘94年、東京国際音楽コンクール・指揮部門にて「入選」。‘96年、ベルリン芸術大学に留学。その後、「ベルリン・ドイツ・オペラ」の指揮研究員として研鑽を重ねる。

‘98年、ミトロプーロス国際指揮者コンクールに最高位（1位なし2位）入賞を果たし、併せて「ミトロプーロス・ゴールドメダル」を授与される。

今までに、東京都響、読売日響、東京フィル、東京響、東京シティ、新日本フィル、神奈川県フィル、群馬響、名古屋フィル、京都市響、広島響、札幌響、九州響、関西フィル等を指揮し、好評を得てきた。また、ドイツの名匠G.アルブレヒトに直接指名される等、オペラスタッフとしても経験を積み、自らも、多くのオペラを指揮している。

海外では、2000年に国立ワルシャワ・フィル定期公演、ウィーン室内管のオーストリア・ツアーを指揮してヨーロッパ・デビュー。地元紙にも「的確な棒さばき」と評価された。‘06年には、ラボラトリウム国際現代音楽祭（ワルシャワ）に招聘された。

「関ジャム 完全燃SHOW」に出演する等、活動の幅を広げている。

現在、東京藝術大学大学院、洗足学園音楽大学大学院及びフェリス女学院大学講師。

program

I E. シャブリエ / 狂詩曲「スペイン」
Emmanuel Chabrier Espana

II W.A. モーツァルト / フルート協奏曲 第1番 ト長調 K.313
Wolfgang Amadeus Mozart Flute Concerto No.1 G dur K.313

第1楽章 榊原里来（学部4年） 第2楽章 中村愛美（学部2年） 第3楽章 中川彩（学部4年）

—

III 松下倫士 / 風の電話 1. 前奏曲 2. 悲しみの海

IV M. ラヴェル / ダフニスとクロエ
Maurice Ravel Daphnis et Chloé

I, II, IV 編曲 / 岩岡一志（本学講師）

program note

E. シャブリエ / 狂詩曲「スペイン」

Emmanuel Chabrier *Espana*

この作品は、1882年の秋にシャブリエがスペインを旅行した際の、同地の情熱的な音楽の印象をもとにして作曲されたといわれています。躍動的なスペインの熱い情緒に満ちている曲です。とは言っても、この曲はを作曲したシャブリエはスペイン人ではなく、フランス人です。

曲が始まると弦のピッツィカートのように跳ねるようなリズムが登場し、次第にハープや打楽器が重なり、主題へと導いていきます。主題は軽快な音楽で、自然と踊ってしまうような音楽になっています。シャブリエは酔って騒いで朝帰りする帰り道で曲想を思いついたとも言われています。突然打楽器を含む全ての楽器が登場して、壮大な音楽に変化します。ピッコロによる鳥のさえずりのような音楽が重なり、次にバスフルートなどの低音楽器で男性のオペラ歌手のような低い旋律が響きます。

次第に高音楽器と低音楽器による問いと答えのような掛け合いが始まります。まるで夫婦喧嘩のようです。その後、川が流れているような綺麗な旋律が奏でられます。このまま曲が終わると思いきや、主題が繰り返し登場し、打楽器とフルートが重なり、ダイナミックな終わりを迎えます。

(3年 松崎 まり)

W.A. モーツァルト / フルート協奏曲 第1番 ト長調 K.313

Wolfgang Amadeus Mozart *Flute Concerto No.1 G dur K.313*

第1楽章 Allegro maestoso

本作品はドイツの作曲家 W.A. モーツァルト (1756-91) によって作曲された作品である。モーツァルトの時代のフルートは木製で、楽器の構造が不完全であり音程が取りづらく演奏が難しかった時代であったため彼があまり好まなかった楽器だという話が有名である。そんな中、フルートのために書かれた本作品はアマチュアフルート奏者であった裕福な医師フェルディナント・ドゥジャンから依頼を受け 1778 年に作曲したものである。そして締切日に間に合わず、曲数と曲の内容に納得できなかったという理由で報酬を半分以下にされたそう。彼は、締切日に間に合わなかった理由として「私は、フルートが苦手ですから・・・」といった内容の、言い訳とも取れる手紙を彼の父に送っている。

だが、彼が作曲した曲の中に『魔笛』があるということは必ずしも嫌いだったとは言いきれないのではないだろうか。また彼は楽しいことが大好きで、中でもビリヤードは台を家に置いて妻と楽しむほど好きだったという。本作品は、フルート奏者にとってはとても大事なレパートリーである。モーツァルトは本当にフルートを好ましく思っていなかったのかと疑いたくなるほど美しい響きで溢れており、とても癒される作品である。コロコロと表情が変わりまるで映画のように、伏線や展開が様々なところに散りばめられているワクワクする楽章ですのでどうぞ皆様も最後までご一緒にお楽しみいただければ幸いです。(4年 榊原 里来)

第2楽章 Adagio ma non troppo

冒頭の味わい深い第1主題から始まるソナタ形式の楽曲である。まるで女性と小動物が会話をしているかのようにソロとフルートオーケストラの掛け合いが全体を通して続いていく。第2主題はイ長調に転調し何かを問いかけるように同じ歌をソロのみが演奏する。展開部は9小節ととても短い。第2主題を変形させたもので話の展開が垣間見える。最後は第1主題をソロとフルートオーケストラと一緒に歌い幕を閉じる。62小節という短い小節をゆっくり進む中で静かな流れと暖かい音色で奏でるフルートオーケストラと豊かで明るい音色で歌うソロの対話が繰り返される。

(2年 中村 愛美)

第3楽章 Rondo: Tempo di menuetto

第3楽章はロンド形式で書かれている三拍子の曲となっており、独奏フルートが軽やかに飛び跳ねるような舞曲風の音楽になっている。華やかで技巧的な旋律の中にも何処か愛らしさが漂う、聞いていて心地の良い楽章だ。楽章の冒頭から独奏フルートが入っており中間部の味わい深い旋律を経てアインガングの後に主題の再現が現れる。今回、私が演奏するフルート協奏曲 第1番ト長調 3楽章と他の楽章と異なることはこのアインガングだ。他の楽章ではカデンツァが使用されており、カデンツァとは本来曲が終わる直前で使われソリストの腕の見せ所でもある所謂即興的な演奏であるが、3楽章で用いられているアインガングは曲の中間部で使われる即興的な演奏でその目的は次のフレーズに繋がる導入のようなものである。このカデンツァとアインガングの違い、そしてオーケストラの生き活きとした、流れるようなメロディーと華やかで楽しい独奏フルートの掛け合いにも注目していただきたい。(4年 中川 彩)

松下倫士 / 風の電話 1. 前奏曲 2. 悲しみの海

この曲は岩手県大槌町の海（三陸海岸）を見下ろす丘にある私設電話ボックス「風の電話」をテーマとし、東日本大震災の悲惨さ、大切な家族や友達などを失った喪失感、亡くなった方と向き合う想いを表現した曲となっています。

2012年7月、初めて岩手県の沿岸部に伺った松下倫士先生は津波の被害を受けた町、海のすぐそばにある中がぐしゃくしゃになった公会堂、学校の校庭にずらりと並んだ仮設住宅を目にした時、「穏やかな海、穏やかな風を感じられるこんな素敵なところでたくさんの方が亡くなり、家を失い…」と考え大きなショックを受けたと語っています。

当時から支援コンサートや寄付活動を行い、30回以上の公演をしていた内に、10年以上の月日が経ちました。少しずつ復興しているように見えるけれどもまだまだな現実を、作曲家としてただ悲しみを表すだけではなく、教訓を残し、同じ悲しみを経験しないことを大切に思い、「風の電話」をテーマとしフルートと風に繋げて作曲されています。

震災の悲惨な思いを表現した前奏曲、震災前の豊かな海、そして津波が襲ってくる様子、パニックで何も聞こえなくなってしまうようなシリアスな世界、最後は悲しみを表現された2楽章を本公演初演で演奏いたします。

各楽器が向かい合うように置かれた配置にもご注目ください。(3年 山田 希宝)

M. ラヴェル / ダフニスとクロエ *Maurice Ravel Daphnis et Chloé*

この曲はフランスの作曲家、モーリス・ラヴェル(1875-1937)が作曲したバレエ音楽である。

2～3世紀古代ギリシアのロンゴスによる物語「ダフニスとクロエ」が題材となっている。

エーゲ海に浮かぶレスボス島の牧歌的な情景が舞台となっており、少年ダフニスと少女クロエの間に芽生えた純真な恋とその成就が抒情豊かに描かれている。第1組曲と第2組曲が存在するが今回演奏するのはオーケストラや吹奏楽でよく演奏される第2組曲である。第2組曲は

バレエの第3幕「夜明け、無言劇、全員の踊り」から構成されている。「夜明け」では冒頭のコントラバスフルート等の低音楽器が奏でる太陽が沈んでいるような旋律にコンサートフルートやピッコロの小鳥の鳴き声のような音符が重なり、段々朝日が差し込みダフニスとクロエが再会する場面のような壮大な音楽の盛り上がりを見せていく。「無言劇」ではコンサートフルートの有名な幻想的で美しいソロやピッコロからコンサートフルート、アルトフルートへとメロディーが繋がり、その後の「愛の主題」とも呼ばれる美しく甘美なアルトフルートのソロにもぜひ注目していただきたい。「全員の踊り」では半音階的な細かい動きを繰り返し見せながら徐々にクライマックスへと向かっていく。フルートオーケストラでしか奏でられないダフニスとクロエの豊かで壮大な音楽にご注目いただきたい。(4年 中川 彩)

Flute Orchestra Member

◀Flute & Piccolo▶

【学部4年】

梅崎真綾 榊原里來 佐野鈴菜 辻陽香 中川彩

【学部3年】

清友菜 池田徳羽子 石川裕葵 菅野真結子 行徳ほのか 齊藤麗
清水花恵 鈴木彩良 鈴木佑菜 松崎まり 宮内菜歩 山上智寛
山田希宝 足達月菜 杉谷葵優香 LIU CHENGYAN

【学部2年】

打越清楓 岡田理奈 鎌仲思実 塩野祐也 瀧本ころろ 出口侑奈
TRANNGUYEN BAOTRAN 中村愛美 藤井千尋 末永愛翔 大瀨文博

【学部1年】

大里花奈 久保文乃 越野梨花 徳増柚衣 福島千瑛 井上りこ
添田羽音佳 中野陽菜 横山ころろ

◀Percussion▶

【学部4年】

入江美咲 江原和紀 大石水紀 中嶋遼 中田実紅 伴玲音

【学部3年】

阿南杏佳 佐山果凜 楊宜達

◀Flute 賛助▶

LEE CHIH-HAO(院1年) YUAN YUE(院1年)

土持詩織(学部4年) 町田花音(学部4年)

◀Percussion 賛助▶

大西悠斗(院2年) 越中亮太(院2年) 趙伯良(院2年)

◀Contrabass▶ 奥山尋冬# ◀Harp▶ 大隅レオナ# 片岡詩乃b

#:演奏補助要員

b:教員

運営企画責任者 斎藤和志

指導教員 泉真由 岩岡一志 滝澤尚哉 中村祐子 渡部亨

授業助手 角田一久

アカデミックコーディネーター 小坂橋沙織